

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一14:33b~40 「教会の秩序」

[33b-34]「聖徒たちのすべての教会で行われているように、教会では、妻たちは黙っていなさい。彼らは語る事が許されていません。律法も言うように、服従しなさい」

ここでパウロは女性たちの状況に目を向ける。パウロの言うことは時代錯誤であり女性差別だと考える人もいるだろう。しかし、そうではなく、これは教会の秩序の問題なのである。コリント教会の特徴のひとつとして一種の熱狂的な婦人解放運動が起こっていた。→11章 彼女たちは礼拝に当時の一般的な習慣であったベールを着けずに参加していた。そしてそのような勢いに乗って礼拝中にしゃべりまくることがあり、それが混乱のひとつの原因となっていた。当時のすべての教会では礼拝中、妻たちは黙って聞いているというのが普通のことであった。それゆえパウロはそれと同様に「教会では、妻たちは黙っていなさい」と言うのである。しかし、礼拝で祈ったり、預言したりすることは問題ない。→11:5

「律法も言うように」→創世記3:16

[35]「もし何かを学びたいならば、家で自分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、妻にとってはふさわしくないことです」

これはコリント教会の女性たちが礼拝中にひんぱんに質問して、そのプログラムの進行や秩序を乱していたということが背景にある。わからないことは教えてもらうことが必要である。しかし、神と交わり、礼拝をするという場を考えずにぶしつけに質問を發するという事は良くない。もちろん男にとってもそうである。パウロはそういうことは家に帰ってから夫に尋ねるようにと勧める。「教会で語ることは妻にとってはふさわしくない」とはこのような意味における注意であり、決して教会にいる間中、ものを言えない人のように黙っていなさいという意味ではない。聖書が教える婦人像→I テモテ2:9~15、I ペテロ3:1~5

[36]「神のことばは、あなたがたのところから出たのでしょうか。あるいはまた、あなたがたにだけ伝わったのでしょうか」

女性は礼拝にかぶり物をしない。質問を乱發する。男たちは聖餐式の時に酔っぱらい、礼拝中には異言を乱發し、解き明かしをしない。預言を語るときには時間を独占し、他の人に譲らない。このような有様のコリント人たちに対して、パウロはいったい神のことばはあなたがたのところから出たとしてもいいのか。あなたがたが他のすべての教会の本家本元なのかと問うのである。もちろん彼らは他から福音を伝え聞いたのである。それなら、彼らは先輩の教会が神のことばに基づいて行っている礼拝の秩序を見習うべきなのである。

[37-38]「自分を預言者、あるいは、御霊の人と思う者は、私があなたがたに書くことが主の命令であることを認めなさい。もしそれを認めないなら、その人は認められません」

パウロは今まで書いてきたことが、主イエス・キリストご自身の命令であることを

宣言する。自分勝手な考えや思いつきではない。彼は自分が聖霊によって靈感されて書いていることを自覚している。そして自分が書いてきたことを認めることをもって真の預言者、御霊の人であることの試金石としている。→ I ヨハネ4:6

[39]「それゆえ、私の兄弟たち。預言することを熱心に求めなさい。異言を話すことも禁じてはいけません」

ひとつひとつの賜物はみな、神が与えてくださった大切なものである。それを人間の考えで禁止してはならない。とは言え、やはり熱心に求めるべきは異言ではなくて預言、みことばによって慰め、励まし、徳を立てることだということは知っておかなければならない。

[40]「ただ、すべてのことを適切に秩序をもって行いなさい」

これが最後の結論である。このことこそ、みなが心を一つにし、声を合わせて神をほめたたえるのにふさわしい根本的な基準である。これはコリント教会ばかりではなく、すべての教会に命じられていることである。